

2年間の臨床研修を終えて 宇佐美 真太郎

ご無沙汰しています。初期研修医としてお世話になった宇佐美です。黒石病院での研修はとても充実しており、この2年間は私にとって最高のスタートとなりました。学ばせていただいたことは多岐にわたりますが、その中からひとつ、内科ローテート中に外来を担当したときのことを挙げてみようと思います。

あるおばあちゃんをご家族と受診され、問診や症状から鑑別診断を行なって検査をオーダーして、治療を選択し外来でのフォローアップを行いました。フォローの度に改善がみられ、適切な治療が行えた安堵もありましたが、なにより患者さんの顔が明るくなったことが印象的でした。その後、違う科をローテートし、たまたま内科外来の前を通りかかったときに、「先生～、おかげで元気になったよ～、ありがとうね～」と笑顔で手を降っているあのおばあちゃんがありました。やりがい、の一言で片付けていいのかはわかりませんが、医師として患者さんにきちんと向き合っただけよかったなあ、と思った瞬間でした。

ここでは書ききれませんが、本当にたくさんの経験をさせていただきました。上の症例のように、患者さんやご家族、症例ごとにきちんと向き合っただけ学ぶことができることが、黒石病院での研修の最大の特徴だと思っています。患者さんたちのご協力はもちろんのこと、先生はじめスタッフの皆さんが愛を持ってやさしく接してくださったおかげで、充実した研修生活を送っていたのだとも感じます。また、先輩や同期、後輩に恵まれていたことも幸運でした。

私は整形外科志望であったこともあり、指導医の熱いご指導のもと手術執刀100例計画も無事終えることができましたし、その他の領域でも病棟や救急、患者背景や死生観など、医師として生きていくベースとなる部分は、少しは築けたかなと思っています。この先、一人でも多くのひとの役に立てるよう、自分なりの方法を模索しながら、歩んでいこうと思います。最後になりますが、私に関わってくださったすべての方へ。2年間、ありがとうございました。